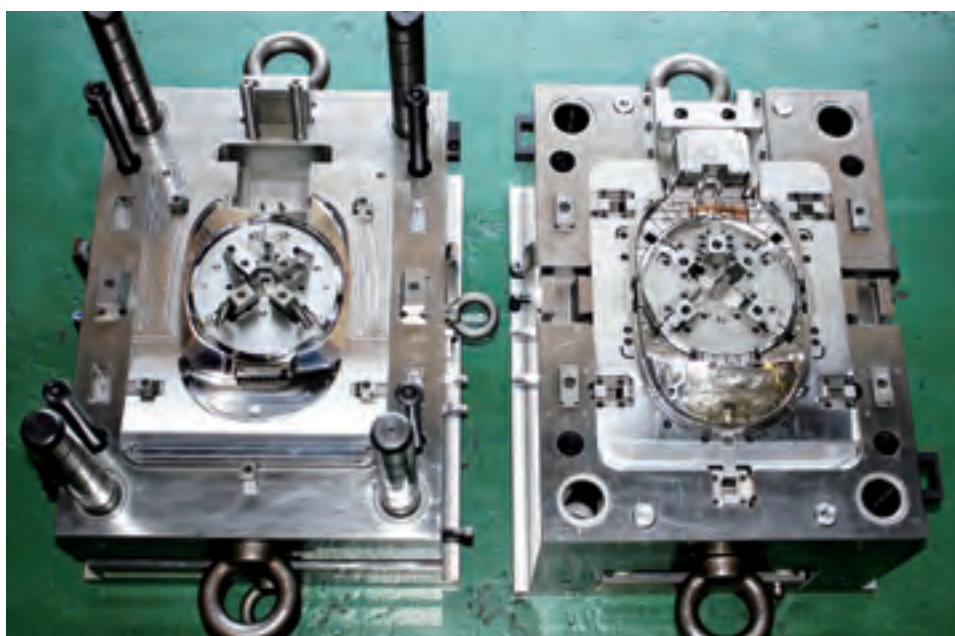


藤塚精密金型 株式会社

樹脂成形用の 精密金型を一貫生産

企画力
自信有
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン



プラスチック射出成形用の金型

業務内容

顧客が気持ちよく
成形できる金型づくり

プラスチック射出成形用の金型メーカーで、金型の設計から機械加工、仕上げ、最終組立までを社内で一貫して手がける。スライド機構などを持つ複雑な金型が得意で、納入先は家電・自動車部品・産業機器・医療機器・ゲーム機・携帯電話など幅広い分野にわたる。製作現場の特徴は高速加工機、ワイヤーカット放電加工機、型彫放電加工機など最新鋭設備と、職人の感性とのコンビネーション。その金型の出来映えについて、「技術を押しつけるのではなく、顧客の立場で気持ちよく成形できることを重視。その金型を作れるのが当社」と藤塚孝征社長は胸を張る。



精密金型から作られたプラスチック部品

強み スライド機構、冷却回路、 高精度で豊富な見直し

スライド機構を持つ精密金型では20カ所以上のスライド機構を作り込むノウハウがある。スライド機構を多用しても成形品にバリが出ず、量産の早期立ち上げを支え、メンテナンスの手間も少ないのが売り物。顧客に仕様を逆提案することも少なくない。

一般的なスライド機構は1段式の可動なのに対して、機械式で制御しながら多段階にスライド機構を可動させる独自の手法を保有し、それにより生産性の高い成形を可能にする。また冷却回路の作り込みや、プラスチック成形品の収縮を測定し、金型側で微

調整することで高精度化を実現する技術も有する。

意識改革

全員が考える会社で
強い組織を目指す

企業体質の転換に力を入れている。これまでのトップダウンの指示に基づく働き方から、社員全員が知恵を出しあうボトムアップ型の組織づくりを目指している。藤塚社長は社内会議を奨励し、最近では現場レベルでの自主的な会議が増えてきたという。「自分で考えて失敗の経験も積んでほしい。今は受注が比較的順調だが、社員全員が考える会社でないと今後は生き残れない」と藤塚社長は語る。

今後の展望

成形工程の融合も
視野に入れ、本業で勝負

ものづくりに欠かせない金型は一定の需要が国内に残ると読んでいる。国内の金型メーカーは減少傾向が続くが、社内には職人的な技量と工学的・科学的に金型を作る両方の能力と感性が備わっており、今後とも金型メーカーとして勝負していく考え。

将来的に拡大が見込まれる炭素繊維強化熱可塑性プラスチック(CFRTP)の成形用金型で先行的に技術研さんに取り組んでおり、すでに一部の顧客から受注案件もある。さらに、ものづくりの高度化に伴い、いずれ金型と成形工程を一体的に手がけていきたいと展望を語る。

COMPANY PROFILE

藤塚精密金型株式会社

大阪 27

当社の 歴史

創業者は戦時中に海軍で旋盤の技術を磨き、その腕を頼りに故郷の新潟を出て大阪府東大阪市内で創業しました。昭和36年に現在地に移転。当時は周辺に民家がなく、田んぼのど真ん中にあり、2階を住居にしていました。移転を機に新しい分野だったプラスチック成形用金型を手がけました。

プラスチック用の「難しい金型」を作ります。精巧なパズルのような精密金型は美しく、かっこいいです。

代表取締役 藤塚 孝征さん



■主な事業内容

プラスチック射出成形用
金型の設計・製造

■主な取引先(納入先)

プラスチック工業製品の
各種メーカー

住所 / 〒577-0033
東大阪市御厨東
2-12-12
TEL / 06-6787-2103
FAX / 06-6787-1810
創業 / 昭和26年4月
設立 / 昭和34年5月
資本金 / 1,200万円
従業員 / 35名

<http://www.fujitsuka-sk.co.jp>